

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	スコットランド・ゲール語を通じた教育と教員養成の効果的取組みの研究				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子

講演題目	スコットランド・ゲール語を通じた教育と教員養成の効果的取組みの研究
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>1. 目的</p> <p>本研究は、スコットランドの地域言語の一つであるスコットランド・ゲール語の学校教育がどのように実施されているのか調査し、スコットランド・ゲール語法によって推進される教育的効果を高等教育機関における教員養成の現状と共に分析するものである。スコットランド・ゲール語を通じた学校教育の実施状況について論文として発表すると共に、本学部の開講科目（「英米の社会と文化A/B」・「ヨーロッパの風土と文化B」・「比較文化入門II」・「原典講読II②B」・「国際言語文化入門II」等）の題材として用いることを目的とする。</p> <p>2. 成果</p> <p>スコットランド・ゲール語を通じた学校教育の取り組みは、スコットランド・ゲール語法に基づく言語政策の中でも、特に顕著な教育的効果をもたらしている。更に、その成功から地域言語に対する住民の肯定的な態度が醸成され、スコットランド・ゲール語を通じた学校教育の需要が高まっている。同時に、適正資格を有する教員の不足を改善するために、高等教育機関における教職課程の整備と教員の養成が急務とされている。スコットランド・ゲール語法制定以降のこのようなゲール語教育の成果と課題について、近刊予定の日本ケルト学会創立50周年記念論集『ケルト学の現在』（三元社）に論文を寄稿した。また、本学部の上記開講科目（特に「ヨーロッパの風土と文化B」・「比較文化入門II」）で、スコットランド・ゲール語の習得や使用の増大、スコットランド議会・行政府の言語政策、教育現場の現状について講義した。</p> <p>3. 今後の展望</p> <p>前年度に引き続き今年度も本学の新型コロナウイルス感染防止対策を受けて学外研修を実施できなかったため、次年度以降に現地調査を行い、EU 離脱の余波がスコットランド議会・行政府の言語政策と教育現場にどのような影響を及ぼしているか分析することを目指す。</p>